

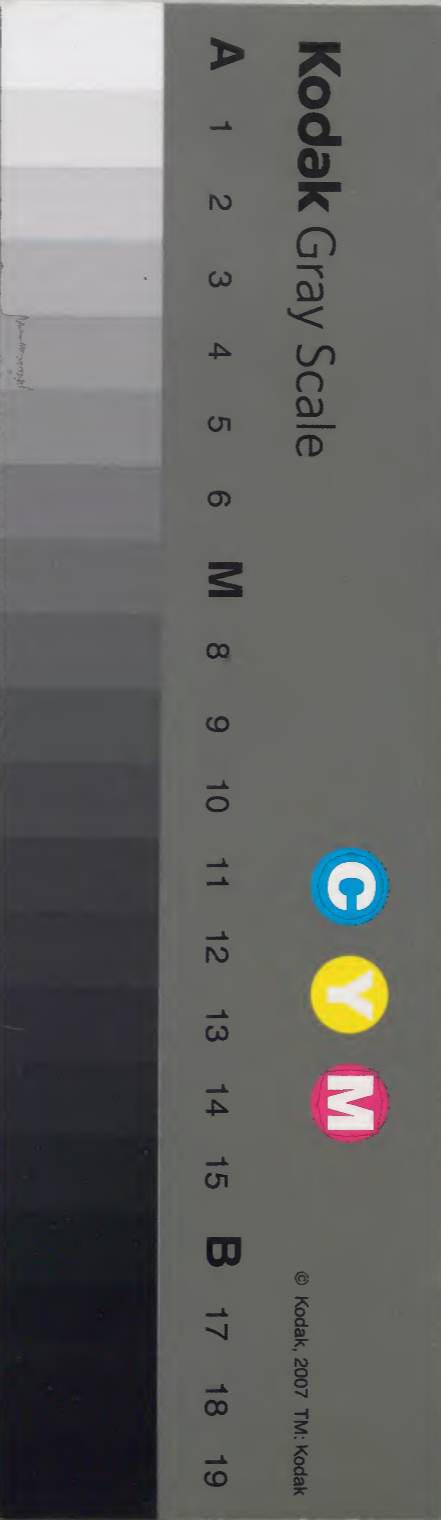
日光道中畧記

二

			二八四五二號	和書門類
一册	一册	一函		

二七函	一册	一册	二八四五二號	和書類
一七架				

內閣文庫	
番號	和 28452
冊數	11 (2)
函號	177 1017



日光道中畧記卷之十一

起于元郷村止于岩槻宿

元郷村 武州足立郡

江戸より三里三十町中村ハ大夫 涉代官所此村ハ平柳

領十五村の本村あり故ハ正保年間のものハ平柳村

と載セ元禄の改定ハ元郷村古ハ平柳村と記シ

是ハ今の村名ハ替リシ年代推シ知ヘ古ハ岩槻

太田氏の家人平柳藏人といふもの當村ハ居住シ

此辺と領セシ永禄七年下総國鴻臺と戦死

シといふ土人の傳ハも平柳領ハ藏人ハ領地あり

明治十四年購求

起りし名ありしはさもあまの村の西の方より平柳
藏人の居住の地ありし方一町を此地あり三重堀
の跡とて小溝残る

一里塚

日本橋より四里

芝川除堤

高き丈慶安二年築く元郷西段と唱ふ此堤千
住宿ありしは

十二月田村

江戸より四里東叡山嶺根津権現嶺土人の悦小昔十

二月晦日野狐来りて紅葉をまき田代植るさる
をりしは此村名起きしと云奇怪の悦ありし
姑く傳ふは此志多しわりの湯料所ありし
元禄十年村内を割く東叡山嶺より残り分を
寶永三年根津権現の社嶺小附し

樋爪村

江戸より四里貳町中村八太夫湯代官所大保福寺
願村民或も二十九日村と記す二十九日ハ一月の終り
あり日の湯あり義ありし當村古の願主を詳あり
次村内薬林寺の記録よ天正十三年立川山城守

重義當寺の薬師堂と造立せし由伝載あり
思ふ、天正の以、其人の所領ありし、立川氏が當國
の七黨より出りし、そのかゝり立川宮内少輔照重の
小田原北条氏に仕へ、現は多磨郡柴崎村普濟寺
境内に彼の墓蹟ありし、ついで此の山城守に志す、の
類族の處りし

薬林寺左

真言宗川口錫杖寺の末あり、瑠璃山と号し、弥陀
と本尊とし、その傍は聖徳太子の作あり、薬師堂
置り、當寺古き、芝川の堤外にあり、地は以、大伽

藍より、天正中岩槻落城の時、落人とも
来り、籠りし、村民つひ寄り、堂宇とす、
おぼく、其後再造の時、今の地に移せり、
山
は、宿鎮法印あり

薬師堂

本尊は傳教大師の作なり、此像を國の薬師と号し、
其故、志し、次、願家村光音寺及び慈林村寶藏院
の薬師を合し、此辺のもの三薬師と稱し、靈驗何
きも著し、又其傍は十二神及び嬖子の像、
安置し、寺記小摺に、此堂は天文八年四月の造立

小一多天正十三年十一月立川山城守並代官
大之保内藏助等大檀那とて再興せり云

鐘沼

境内北の方より十歩許の池あり昔兵乱の時
當寺の鐘沼の中より沈み故小此名ありと云又一説
よ當寺の鐘を何もの盗去り今常陸國筑波山
の上より埋みたりといふ信あり

氷川社左

當村及び十二月田前田二軒在家四ヶ村の鎮守とせ
り藥林寺持たり

地藏堂左

村民持

二軒在家村

江戸より四里四町中村ハ太夫湯代官所當村とてハ
樋爪村の内あり故よ土地相接して四境及び廣狹
等分るゝいゝ既小元禄十年の氷帳ハ樋爪二
軒在家村と並へ記してありとて分村とて年代
ハ詳かり

山王社左

村民持

荒神社 左

同上

五智堂 左

五智如来と安置以前田村寶林寺持あり

前田村

江戸より四里七町東叡山願元禄十年より以前に涉

料所あり

大日堂 左

村民持

山王社 左

同上

寶正寺 右

真言宗川口錫杖寺の末光照山無量壽院と号

以開山詳なり次中興第一世の僧菴賢弘治二年

三月廿日寂れりといふ古く開き事知る本尊弥勒

院ハ惠心の作又春日の作もいふ傍よ地藏を置

あり弘法大師の作なり此像の尤手虧き失ひ

小より度々佛師に命じて補はれりといふも忽

ち去り元より高僧の作なり凡下の修補

も故かんとて其後ハ修造を以又獅子の背小

高野山萱堂成就院宥栄寛永十八年十月廿
四日奉求之と記せり云々當寺は傳來の由緒を先
住高野山小遊學一と云下山の折々師の僧より
懐き受ると云外小文殊の祠像あり是むと何人々
天竺より持來りて像なりと云

薬師堂

本尊の傍より日光月光十二神と安永に新四国八
十八ヶ所の内償波国金倉寺に擬せりと云當寺は
六世宥海のとき貞享五年九月此堂に造立せり
云々過去帳よ見へあり

愛宕社

境内の鎮守あり天神疱瘡神と合社と云

中居村

江戸より四里拾五町中村八太夫湯代官所

八幡社 右

村の鎮守あり小淵村源永寺持あり當社の背後
竹藪の中一小株の木あり其下より石櫃あり云々太田
道灌の秘藏の武器と納免を云々云々此處に手紙
觸るは必崇あり云々土人恐怖して近つたされと慥々
あり事ハ知るべし云々

八慶長十六年寂

辻村

江戸より四里二十二町中村八太夫侍代官所

鳩ヶ谷宿

江戸より四里三十町川口宿より五里十五町日光の
間の大門宿へ五里二十五町中村八太夫侍代官所此
宿の南あり初免ハ慶長五年奥州侍陳のとき此道
以通 侍ありき遂小諸國侍手は属せし小
も侍吉側ありし日光侍造管ののち此地を驛
亭と定免し人馬の定敷川口宿も同一や

子二町八段を免除せしき毎月三八の日と市定日と正保元禄
のころハ共鳩ヶ谷町とあり宿を改免ハ其後のことなり
鳩ヶ谷の名ハ古事小して東鑑仁治四年三月十二日戊子の条ハ
鳩ヶ谷兵衛尉重元の名あり又武藏國足立郡内鳩ヶ谷地頭職事と
見えし其末と久し又通ハ鳩ヶ井とも書せしと東鑑
建長八年の条ハ鳩井と書き古文書ハ井と書せしものあり今鳩ヶ
谷の文字を用ひしもの土人ハ井と唱へ来たり又宿の入口辻村境ハ
西南小ありて富士山のかう免甚しう一光惠法師東國記
行よ云その日半よりやりに富士ハ之侍りぬと云はるの霜のあふ
りて紙のきりかきりもあは侍りかりしと鳩ヶ井のきり滋

野憲永くやふつまぬ文明元年十一月 残月ほくが結草の
 是ふおあつりく朝の日東の空ふむるわのりきく富士も
 蒼天ふむくくく雲翠をかへり

今朝ふむくはやくさ先づ富士は神

と見えきんハ文明の成も此わらるる富士山のふえわり

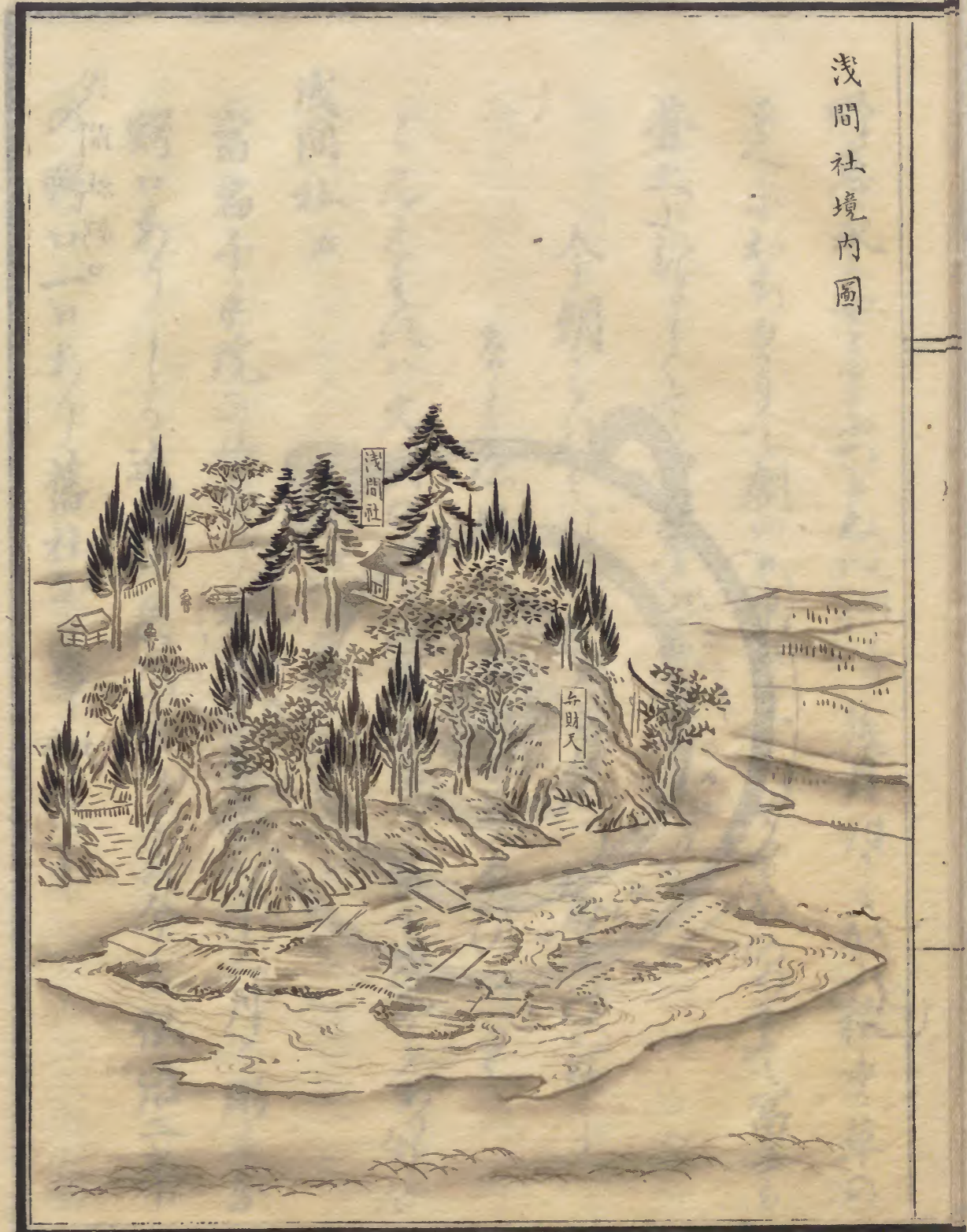
浅間社右

當宿千手院の持分り社頭よ正安三年二月と彫るか
 髯口ありしう近き氏失ひありと云今も弘治二年
 の髯口一口あり舊社ある事知えし

浅間社髯口



浅间社境内图



坂下橋

三沼代用水堀小架以板橋長五間幅二間半吹上
橋も号以

見沼代用水

水源ハ利根川少く九三十里程上埼玉郡下中條村地
内元入樋より引足立郡上尾菅村地内より西縁東
縁より分派此流ハ東縁より引續瀏江領谷古田領平
柳領舎人領四ヶ領十六ヶ村組合の用水あり

一里塚

日本橋より五里

千手院 右

禪宗里村法性寺の末鳩井山と号以運慶の作ま
千手觀音と本尊と以むくハよりあり庵室あり
しう後一寺とありて法性寺末より屬をり開山と澄
山祖芳と云永祿三年寂

源性寺 右

真言宗浦寺村地藏院の末第六天山阿弥陀院
と号以本尊弥陀と安置以

市神祠 右

市中あり

氷川明神社左

當宿乃以辻村里村等の鎮守あり稱宜鳴田和泉
鎮あり

神明社

稲荷社

同二社

天王社

癒瘡神社

三峯社

天神社

愛深堂

右社地小あり

法性寺左

里村の内外通とも惣門の宿の町並小出あり禪宗
遠江国榛原郡高尾村石雲院の末玉龍山と号し
天正十九年寺領十石の 浄朱平と賜ふ此時より
寺号ハ保心と書し 御朱平ハ法性寺と記し
とて文字と改免しとて不釈迦と本尊とて又安阿弥
の作まふ千手観音の像あり相傳ふ文明八年太田
道灌當寺と開基し寺領と寄附し其以ハ天台

宗より灌頂山保正寺と号せし一雨土杉氏戦争の
とき住僧兵乱をおこしつゝのりて去りて寺領を失
ひ堂宇もあつて荒廢なり其後明應七年震
龍といふ僧再建しつゝ禪室と名けし玉龍山と改号し
同八年三月遠江國より季雲永嶽といふ僧を請待
して開山とす震龍ハ第二世小居たり永正十七年
村山伯耆守行秀寺領を寄附せしつゝ行秀を中
興大檀那とせし開山永嶽ハ大永五年寂し震龍
も天文八年寂し行秀ハ天文四年に卒しけしハ
當寺に葬り法名を保正寺定山存景と号し此人

ハ扇ヶ谷上校定正の幕下と當郡戸田領の地を
領せしといふ傳ふ村山氏ハ當國七黨の内少く村山
貫主頼任同七郎家継おと稱せし人あり行秀ハ
是等の後裔なり又行秀が寄附せし寺領も
北條氏康の時没収し天文二年に至り氏直より一
貫二百文の地を寄附せしといふ一藏を所領の文書小
見えあり

下足立里村ハ内保正寺領ト事
大途に在り先年より檢地し初に領す

お給ふに後寺領土壹貫貳百文如前
其古遺山寄進の由状如件

天正二年

甲戌九月十日

保正院

西ノ東ノ

康定院

保正寺

浦寺村

江戸より四里三十八町平岩右膳涉代官所

地藏堂 左

土俗此堂を人果堂と云其故を知らず昔八幡太郎
義家奥羽征伐の時首實捨あり一祈ありと云
信用甚しく小あり其傳の事代記に地内小十五堂
あり

地藏院 右

真言宗山城国醍醐之室院の末箱崎山錫杖寺と
号し本尊地藏と安んず入間郡仙波喜多院と

掛の古鐘の銘は武藏国足立郡鳩井郷管崎山依
慈母命奉濟之正安二年庚子三月十八日大工沙弥慶
頼源景恒と彫りて此鐘仙波村の深田より得たり
と云是當寺の鐘と見ゆ是は古き寺なりと云く知之
閑山ハ不雅寂奉と傳へる中興閑山尊蓮ハ慶安
元年寂り

觀音院左

村内地藏院門徒なり切徳山と号し本尊十一面觀
音と安んじ弘法大師の作り

西新井宿村

江戸より五里七町中村ハ古夫湯代官所正保改元の國
圖ハ新井宿村の名のありて西新井宿村と載
るハ元禄の圖ハ始々此名見えぬ是ハ其中寫し新井
宿村より分村し西の文字と冠りてありて當村
と西と稱し對し隣村新井宿と東新井と
ありともある土人私の唱なり村の東日光 清成道の
中央と界し新井宿村ハ隣なり

駒ヶ塚左

土人の話よむ何人の児ありや此所より落馬して
死せしと云り其馬と繫きし所ハ塚と云ふ

かく名付りと云かの児の墓よハ桜樹を植く
とせし其木のつらの枯あり今ハ椎木の桜を植
てて児櫻と呼来たり

牛頭天王社 左

宝藏寺持

氷川明神社 左

東新井村子日権現社と對ハ寶藏寺持

寶藏寺 左

真言宗西新井村總持寺の末音龍山無量壽院
と号ハ本尊ハ大日なり

河弥院堂 左

寶藏寺持

児櫻 左

駒ヶ塚の条よ出ル

姥池無財天社 左

児の落馬して死せしときわうりある老女其死をうか
しみ身と投せし池ありし今ハ埋まじ僅し形
のこ存り老女の霊と辨財天よまつ其墓と姥
神塚と名付く

神明社 左

寶藏寺持

姥神塚 左

新井宿村

江戸より五里九町中村八太夫湯代官所土人の西新井
宿村小對し東新井宿村と呼べり

子日權現社 右

西新井宿村氷川社と相對する村の鎮守あり天
神山玉稻荷の三神と合祀し多寶院持

多寶院 右

真言宗西新井宿村寶藏寺の門徒あり戒光山

と号し本尊ハ不動と安置し

薬師堂

境内よりあり

爺塚 右

西新井宿村地内姥神塚と相對し古きも見よ也
ゆゑありの塚あり

石神村

江戸より五里廿四町赤山領の内あり中村八太夫湯代
官所此辺多く柳の木を植へて流をとり江戸に出る
都下より赤山流とて大別此辺より出るとあり

真乘院 右

真言宗浦寺村地藏院の末長久山真福寺と
号し本尊不動と安重八中興開山尊雄八寛永五
年寂享保十三年日光 御系譜の時 御小休所
とありし其後荒廢し今住僧もなし

十五堂

観音堂

境内より正観音派安重八行基の作

鬼子母神堂 右

村民持

稲荷二社 右左

左ハ真乘院持村の禎あり右ハ村民持

神明社 右

真乘院持たせり村の徳守と云

赤堀代用水

三沼代用水の分流あり長五間幅二間の土橋を架り

北原村

江戸より六里四町中村八太夫湯代官所

一里塚

日本橋より六里九北原村右ハ戸塚村の地内あり

稻荷社左

村民持

戸塚村

江戸より六里十部町伊奈半左衛門清代官所三佛寺
領

本行寺右

日蓮宗武列池上村本門寺の末正立山と号し本寺
三寶祖師と号す開山日正永正三年寂開基と
成田氏の旗下小宮山彈正の家人島根左近と云
ふの外と云ふ

番神堂

境内よあり

稻荷社左

村民持

神明社右

神主齋藤左内當社ハ四百年前の勸清之村民
持あり其後神之持あり

西光院右

真言宗西新井宿村寶藏寺の末音龍山傳福
寺と号し開山敵牙天正年中寂

諏訪明神社 右

御小休所

西光院持村の鎮守あり社の背後東北の方折むら多筑波日光の山と尾曾根哉ヶ谷の村里より一眼小見え其眺望いんるあり安永五年日光

御嘉治のとき 御小休所あり又鳥居外右の方より石地藏ありせいへ地藏より其故とあり

延壽院 右

真言宗村内西光院の門徒松仙山と号し本尊を不動を安置し

稲荷社 右

村民持

千日堂 左

同上

小宮山彈正公城蹟 右

天正年中成田氏の旗本小宮山彈正公忠孝といふ人の墓跡あり四方一町余龍賀山と稱し今ハ御林とありあり大門宿あり地蹟の高場あり松杉繁茂し地形ハ乾き巽へとあり西北は免く一二の曲輪とあり堀ありいまでも残るは本丸の跡とありとあり小高くして丘の

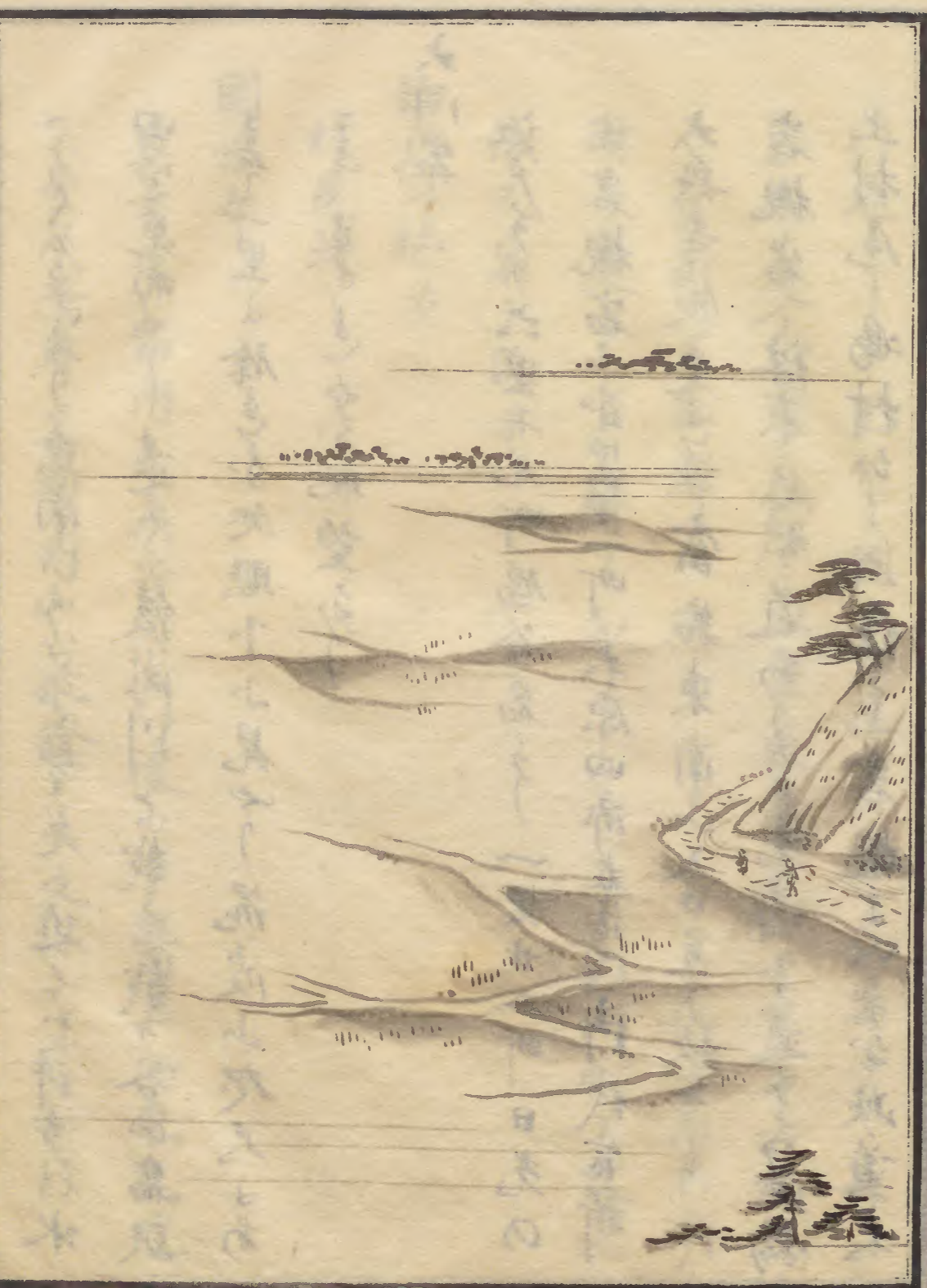
諏訪明神社後東北眺望図



小宮山城跡圖



戸塚村



こゝをふり東南のうらと望見ハ近くハ許多の水
田と見わらる遠くハ綾瀬川を裁く裁ヶ谷の宿駅
まゝ一里ハ餘程子処眼下小見やり花波山咫尺ハあ
まゝとくまゝ眺望あり

大門宿

江戸より六里十九町鳩谷宿より一里廿五町日光の
方岩槻宿ハ廿里十一町大原四郎右衛門清代官所
大真寺領交より當宿東南の入口より坂を下りて
岩槻宿ハ往來の服道あり日光清下道より鉤
上村尾ヶ鳩村から成経より岩槻より此道大

門通より半里なり近ハ往古ハ鳩ヶ谷宿より直ニ
岩槻宿ハ人馬を絶ハり里敷遠きより中古願上
り當所を宿驛小取より其以迄ハ大門
村ハ宿ハりを驛ハり大門町ハ改免
後又宿ハ改免

稻荷社 右

村民持

圓福寺 左

真言宗宿内大真寺の門後ハ醫王山東光院
と号ハ本尊不動開山ハ永證と云文禄二年寂ハ

愛宕社

太子堂

薬師堂

右境内小あり薬師ハ行基の作小一多長一尺餘の
座像あり

牛頭天王社 左

神主酒井大和

十二所権現社 右

別當華嚴寺村の禎守あり

華嚴寺 右

真言宗窟内大興寺の門徒あり熊野山寶光院
と号し開山源盛寛永元年寂し本尊ハ不動
と安んず

大興寺 右

真言宗原村密藏院の末慈眼山観音院と号
し本尊不動ハ真教大師の作あり長三尺許ふ
り天正年中寺領三十石の 御朱印と賜ひし
明暦年中焼失ししと元禄年中やうし
御朱印と賜ふ境内よ

御宮あり宝暦年中勧清一奉と云青龍

権現と合殿と又享保十二年日光
御小休所と云。開山ハ永義と云永禄二
年寂

稻荷社

観音堂

境内より行基の作道が如意輪観音と安立

多門寺 右

大真寺の塔頭が地藏と本尊と云

稻荷社 右

多門寺持

浅間社 左

大真寺持

玄蕃新田

江戸より七里三町大原四郎左衛門清代官所加茂庄之助
知行所文を以て當村と元禄の頃より云々
云

第六天社 左

村民持

稻荷社 左

村民持

辻村

飛地大原四郎右衛門清代官所住還の中央を界
と西を玄蕃新田の地なり

一里塚

日本橋より七里右に辻村あり大崎村地内なり

大崎村

江戸より七里七町大原四郎右衛門清代官所住還の
中央を界と東に辻村の地あり

國昌寺左

禅宗深谷村常泉寺の末大崎山と号し本尊

釈迦と安産の神あり高橋圖書よりあり開基あり

第六天社左

村民持

辻村

江戸より七里拾三町大原四郎右衛門清代官所

順行寺右

真言宗村内總持院門徒あり本尊は不動と安

置火

兜塚左

由来詳なり高五尺余

稻荷二社 左

村民持

鷲大明神社 左

村の禰守より惣持院持

氷川明神社 左

別當照光寺村の徳寺より上野田村の内より

照光寺 左

禪宗行柳村万年寺の末桃谷山より号以地藏を

本尊より

代山村

飛地大原四郎右衛門清代官所性還の中央を塚より西より過村の地あり

中野田村

江戸より七里拾七町春日八十郎知行所性還の中央を塚より西より過村の地あり

代山村

江戸より七里拾九町大原四郎右衛門清代官所鳩田愛之助知行所入會性還の中央を塚より西より過村の地あり古六大山或ハ臺山と書き

薬師堂 右

此藥師ハ六七十年前江戸本所洪水のとき堅
川一流進より其辺の町人拾ひ得て別小一
軒を造り以像を腹巻よりかき深川靈岸寺
に置り其後因之にお供りて當村小送り此一字
を建立せりと云村民持

山王社右

村民持

八幡社右

村の徳守より別當興福寺

興福寺右

真言宗大門篇大興寺の門徒より八幡山と号し弥
院と本尊と云

覺蓮寺右

寺山村死地の内より天神稻荷兩社の別當
より本山修験中尾村玉林院配下より安養
山と号し古ハ満藏院との号せし寛延二年聖
護院より山号寺号を免許せしより今今の
名より造り寺僧の活より稻荷社ハ日本武尊東征
のとき立寄玉ひ寶釵を置むより當社を是
立野の神社と号せしとの説疑ふ又一當寺

ハ長徳元年の草創也。市川山覺蓮ハ同三年四月八日寂也。と云。信ノカミ

上野田村

江戸より七里廿五町大原四郎左衛門伊代官所伏見源次郎知行所今上中下の別はあまの古はさへて野田村と稱し一村あり。と云。此の以也。分ちし。云野田の名ハ古くは伊代と唱ふ。信州高井郡井上の城主井上五郎盛長の子貞親六才の時文治五年の合戦小父盛長戦死。故ともつゝ貞親親鸞上人の門小入。薙髮し。名氏

西念と号し。武列是立郡野田と云。所小一字を建立し。長命寺と号。彼西念ハ正應四年三月十五日示寂。此寺建武の乱小被却と云。是。西念の故郷也。汝れ。信州駒澤へ再ハ一寺と造立し。長命寺と号。と云。事二十四輩順拜圖會といふ。の小見。古き地名也。推し。此地往古ハ岩槻太田氏の領地なり。と云。

稲荷社左

村民持

寺山村

江戸より七里三拾を町大原四郎右衛門清代官所古
ハ野田村の内より天正の頃よりハ岩槻太田氏の
領小属一其よりハ極樂寺といふ寺院あり一
同十八年岩槻落城の頃兵火の爲小焼盡一ハ
寺地を廢一ハ村里と別を一ハ寺山の名ハ起建
里と云

勢至堂 右

村民持

鷺藪 右

白鷺の里と云ふハ雪の里一安永の頃ハ隣村

新深谷村の内往還より西の方竹藪のあり一ハ
み一其後つらの頃より寺山村の藪より進み毎
年春彼岸の頃より鶉多く棲るハ一ハ後秋の
彼岸よりハ鷺の里と云ふ

新深谷村

江戸より七里三拾四町大原四郎右衛門清代官所伏
見源次郎朝比奈金平知行此村ハ同郡深屋村
の民間を一新の字を加へハ一ハ村の西を貫
き三沼代用水のり安永の頃ハ村内往還
の西ハ鷺藪あり一ハ悪臭往還するハ一ハ

日光 浄土詣の時東のく畑の中浄智道小の
一と云

天神社 右

當村及上野田村の内丸山小名の徳寺あり棟札は
元和二年丙辰二月廿五日足立郡野田村と記あり
今も上野田村小接近せし地小わが社あり元々
野田村あり勸清寺といふありし真音寺の持あり
真音寺 右

真言宗大門窟大真寺門徒より梅松山神鏡
院より開山憲永八天正元年寂し弥院と本

尊とせり

膝子村

江戸より八里を所大原四郎右衛門浄代官所明神
領光徳寺淨國寺領入交り材名の起ると尋る
小むし此辺の農民某々妻懷妊し異形の毛
の産まれ其さぬ人の膝小似多しと膝子と異
名小呼ひしとあり終り材名と外さしと
云土俗の説あり取小是れも志しと傳ふま
と記あり

芝宮明神社 右

祭神ハ春日明神アリ村の小名芝宮小ありとあり
かく縁あり西藏寺持

天神社 左

西藏寺持

西藏寺 右

真言宗浦寺村地藏院の門徒あり本尊ハ不動

光徳寺 右

禪宗片柳村萬年寺の末江長山と号し慶安

二年寺領十三石の 御朱印を賜ふ廂山杖巖慶長

六年寂以本尊ハ釈迦と安置を門前あり東のり眺

望甚あり

白山社

観音堂

境内小あり

一里塚

日本橋より八里

阿弥陀堂 右

村民持

白山社 右

村民持

八幡社 右

村の鎮守なり別當満藏寺

満藏寺 右

八幡の別當真言宗浦寺村地藏院の末八幡山明
王院より号以本尊不動の惠心の作小して長五寸許

愛宕社 左

村民持

神明社 左

満藏寺持

薬師堂 左

光徳寺持

官下村

江戸より八里八町官崎甚有舊の菅沼又去遠山小左衛門
知行あり當村ハ隣村官ヶ谷塔村の氷川社の下よ
接迎の地多とあり官下の名起きりといふ

子ノ神社 右

奥生寺持

八幡社 右

村の徳寺なり別當奥生寺

奥生寺 右

真言宗村内寶光院の末八幡山と号し不動を奉
尊と云

氷川社右

別當寶光院村の鎮守あり

稻荷社

天神社

第六天社

社地小あり

寶光院右

真言宗埜玉郡岩槻宿弥勒寺の末靈川山醫

王寺と号し本尊ハ不動あり

宮ヶ谷塔村

江戸より八里拾三町大原四郎右衛門清代官所い

しハ宮ヶ谷戸と云々ハ多岐ハ元禄の以より戸の

字を塔の字ふくむハ其所以ハ詳あり正保の

以より圍部外記ハ知行ありハと子孫徳五郎

眾ありハ明和元年没収と云清料ありあり

氷川社左

村の鎮守あり別當正谷院

正谷院左

真言宗京都東山法巖院の末金光山々号以明
曆年中の起立なり開山隆星ハ元禄六年寂以
本尊不動ハ弘法大師の作なり

第六天社 左

村民持

水神社 右

村民持

綾瀬川

村の東境を流る幅八間水源ハ凡七里程上埜玉
郡領家村地内少く備前堀より分進来り末ハ

七里余下少く隅田川に流る

大行土橋

綾瀬川の分流又架以長五間幅二間

泚成橋

土橋綾瀬川又架以長六間幅三間又是是立那
埜玉郡の境なり

岩槻領 埜玉郡

江戸より八里十九町大園主膳正領分

馬坂

岩槻への馬道なり

加倉村

江戸より八里或拾三町余大園主膳正領分

澄圓寺 右

浄土宗村内浄園寺末秋月山正壽院と号し
本尊弥勒と安坐し開山八本寺第十世の僧
玄察あり元禄四年寂し

久伊豆明神社 右

村の鎮守あり祭神八咫貴命ありとて本地佛
十一面觀音と安坐し大善院持

大善院 右

幸山修驗葛飾郡幸手不動院の末永明山
と号し本尊不動

洞雲寺 右

禅宗入間郡哉生龍穗寺の末釈迦と本尊と
以當寺八太田美濃守資頼の起立あり六の人天
文五年四月廿日卒し法名壽仙院知樂道可
と号し開山布州東播八天正元年寂し

浄園寺 右

浄土宗園東十八檀林の一あり京都知恩院の
末佛眼山英隆院と号し天正十九年寺領五

十石を揚り寺傳ふ云當寺ハ圓蓮社總管清
巖の草創なり其の僧元是立郡嶋巢岩勝願寺
小住き一々太田十郎氏房俗縁小なり深く屏
依一清巖退隱の由是當所なり寺地を占一以
りて天正十五年移りて起立せしと云其時の
文書今小寶藏小あり其文左に記す

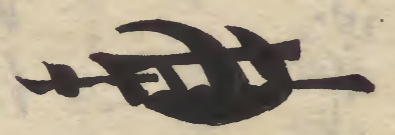
為勝願寺隠居於當地一寺也
一廬山建立尤ふ有お遠き也仍

如件

天正拾五年亥

八月十日

氏房



勝願寺

當寺ハ氏房の信仰後よりなりふなり天正十
六年岩槻より境内法度の未了を以て其文小

於當寺在化之法該執行依之聽
見ありり族相別撰合狼藉ふり之
所遠犯之等者之記文若ては遂披
家匠て之教科方依作忒如件

天正拾六年戊子

五月十日

三友城世布兵衛

淨國寺

此寺ふる事さるむりり盛ある寺ふる事初之
後年阿部備中守正次岩槻の城主とありり
菩提所とあり故小對馬守小いりり供養料と
て綾瀨川の辺あり新田と寄附とあり小笠原統海と
城主とありり其其事廢とあり云當寺本尊ハ三
尊の弥勒安阿弥の作あり六六記之禪師深く信
仰ありり上足の徒弟寂慧小讓り与一則鎌倉金戒光
明寺の本尊とあり其後同寺三世定慧のとき記主禪
師の草創とありり鴻巣勝願寺へ移して本尊と
とて清巖和尚のとき當寺の本尊とせりと云



洋國寺境内圖



本堂

東照宮の御造立あり一氏元禄年中火災小劫
あり後再建あり是今の本堂ありと云

惣門

此門ハむろ一駿府御城内小あり一と

東照宮より場一あり一此地小移あり故小墓
御紋附あり四ツ足門あり

中門

下馬札

當寺第三世傳察の時免許あり一と云

經藏

鐘樓

享保十七年の造立あり

稻荷社

境内の鎮守あり石尊金毘羅の二神と合祀

地藏堂

境内小あり

浄茶水

中門の左のうらふあり

東照宮岩槻御鷹狩の折あり當寺へ渡りて

一と此水を汲く御茶とあり一献せしむ其水の清冷なる事を稱しむひしむ日光御系詣のときハ舊例小まらう献し奉ふと云

寺寶

御朱印

一通

天正十八年小田原御陣の時開山清巖使僧を以て御機嫌を窺ひ奉りしむと賜りしと云

御黒巾

一通

御判の壺形あり是ハ文禄二年肥前國名護屋御滞陣のとき第二世教養使僧を以て御

容辨を窺ひ奉りし御返書あり

全阿弥書状

三通

一通ハ名護屋御陣のとき賜りし御黒巾小附しむとあり一ハ三毒不滅の論義ありき御小依りしむと書あり一ハ浄土宗宗務議所御制條 御出されの事小川きとせし書あり

太田氏古文書

二通

是より前小出きし天正十五年同十六年の文書あり

大藏一覽

東照宮 清和つゝ三世の住僧保誓傳案賜

彌陀末迎画

惠公筆

六字名號

紀伊中納言網教卿筆

同

松平裁前守室筆

聖德太子自作像

觀音

地藏

毘沙門天

何志も運慶の作あり

金襴戸帳

金襴赤敷

縹珞水引

右三種ハ桂昌院殿清寄納

釈迦如来左眼舍利

此舍利ハ三俣村龍藏寺の洞山教藏より

僧故ありて尾州熱田小く得るを傳来
しと菅原某より清巖和尚小附子と
あり當寺山号ハ此の舍利小くして起る云

同涅槃像

純子幡

明信院殿清寄附あり

綸子抄敷

竹姫君清寄附あり

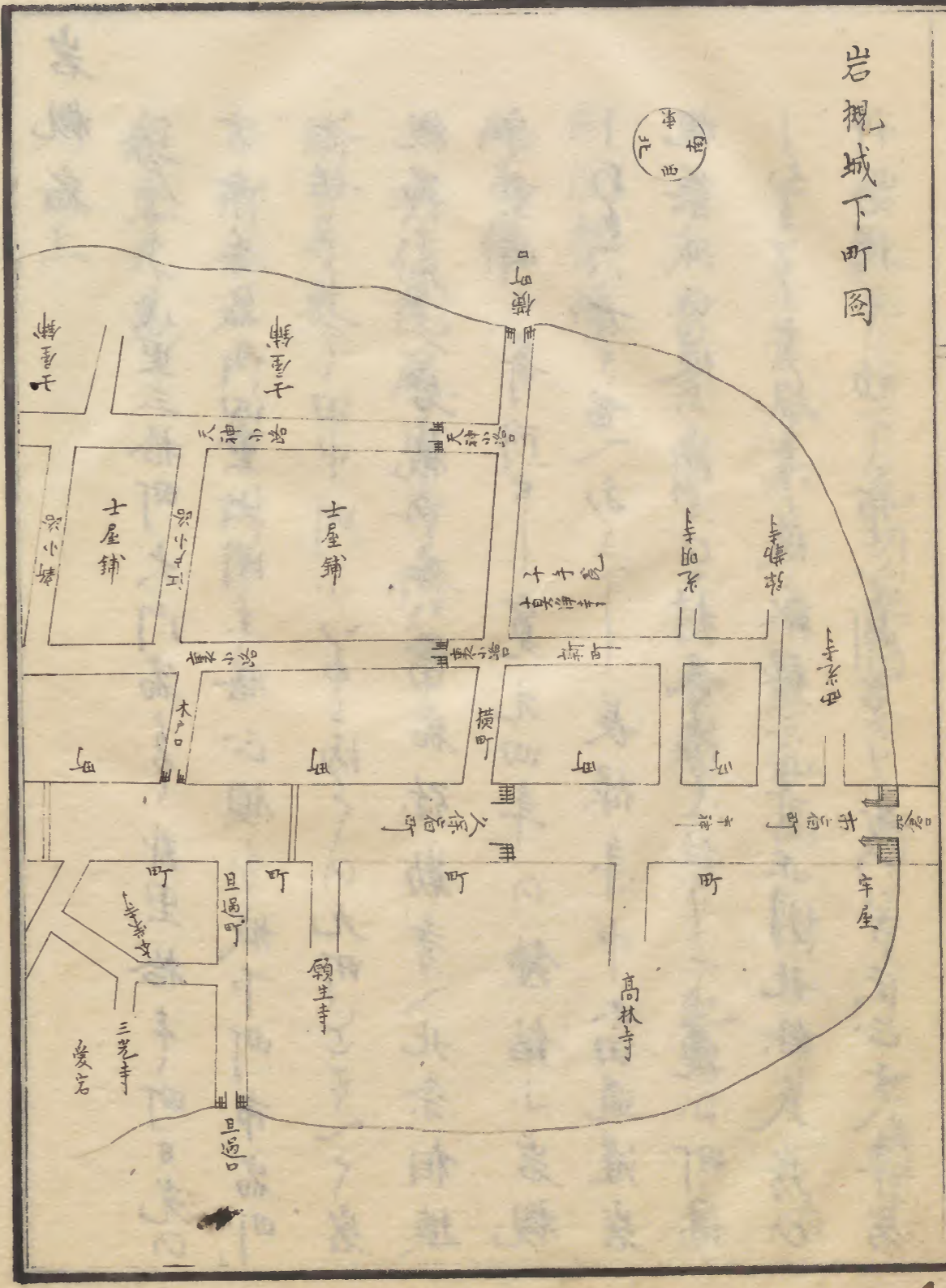
衆生天蓋

以上

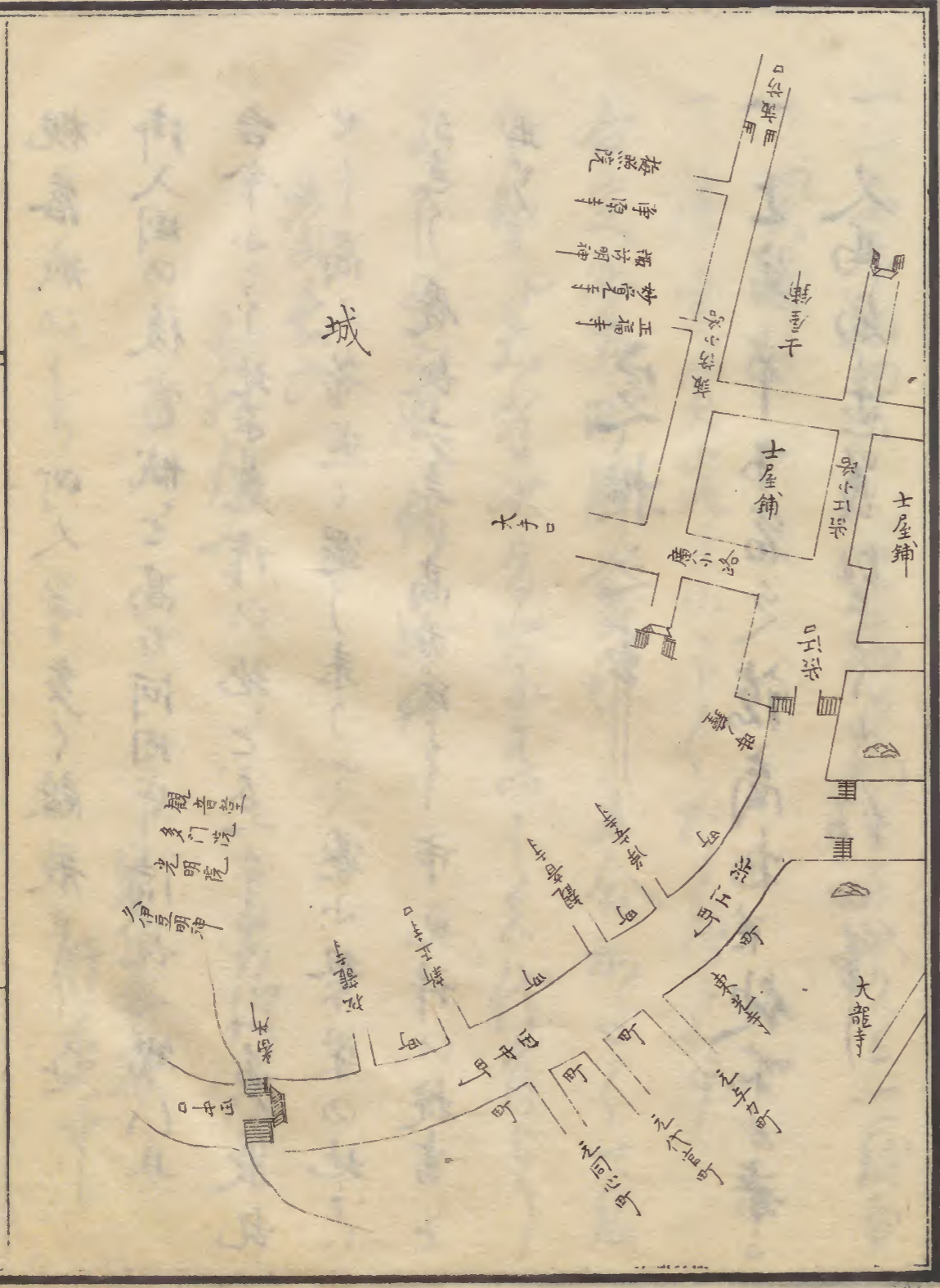
岩槻宿

江戸より八里三拾町大門宿より武里拾々町日光の
方幸手宿より四里大岡主膳正領分城下町市宿町
と始りて田中町小いりゆくの九町とて岩
槻宿と唱へ岩槻の名ハ當宿弥勒寺へ北条相模
守重時より寄附せし寛元四年の鐘銘小岩槻
とあり古き唱へあり長禄年中太田道灌岩
槻築城の後ハ斯くの村民来り住りて遂小町場
とあり後永禄三年正月北條氏房の
許と得り初て市と解あり歩つて天正十八年岩

岩槻城下町圖



城



槻落城のとき町人等多く離散せしと
御入国の後當城を高力河内守清長小場い且
台令ふらう地子免許の地とま一り一多い散乱
せし高人等返り来りて遂小繁栄の地と
ふらう慶長六年高力氏より市免許の控書と
出せり

定控之事

一上宿市下宿之徳商物並他不
人馬毎通後控しく信守事

一ふらう町中へん上宿よりとらう町中へん

控書

一徳商物並他不

右定如愚町肝葉中一人合かしくて致
下知し若者所方葉のましく志代宿より
この中へん也 仍る如件

葉中六

ふらう町中

高力河内守

上宿市宿
肝葉中

おまじり引續き今も毎月一六の日をめぐり市
の定日ときり此土の産物葱牛房を第一とて殊
小牛房ハ城主より 公へ上るもの品ありとて

市宿町

牛頭天王社

町の入口小わりの市の守護神とて

西光寺 右

真言宗宿内弥勒寺の門徒あり安養山阿弥陀院
号ハ本尊ハ弥勒と安置きり

弥勒寺 右

真言宗山城国醍醐三寶院の末光岩山釈迦院
号ハ本尊ハ五大尊あり本堂小寛元四年鑄造の
古鐘と掛く古色小く免つて此のあり銘
文と字く左下の如

南閻浮提大日本國東道

武列崎玉郡簸輪郷岩付

光岩山釋迦院彌勒寺

願主法印宗典代鑄之

施主北條相模守平朝臣重時

爲善根寄進臣慈功力此鐘

一度撞則出離三界之苦成證正覺

維時寛元四丙午年庚則上澣

鎌倉 御鑄師

権名伊豫守藤原吉次

當寺皇矣天下泰平国土安穩殆庶而

鎌倉騷動靜謐殊者願望成就旨

趣願文進別紙而已所

十二月大祥日

謹言

芳林寺 九

禪宗駿河国志太郡藤枝宿洞雲寺の末太平山
と号し釈迦と本尊と云々開山覺翁文等ハ文禄四
年寂し當寺往昔ハ地藏寺と号し比企郡松山下
あり太田大和守資高母芳林尼追福の事先永
禄十年當所小核し堂塔を修造し地藏寺と
改名し芳林寺と号すの元小資高代以て開基
と云々境内小資高の墳墓あり昌安道也居士
永禄十二年八月廿三日と彫き

横町

清成道久保宿町より右小入小路あり末木戸あり

林道口より下道通大門宿の方へ出ず道あり

真浄寺 右

日蓮宗池上本門寺の末大法山と号す

千手院 右

禅宗加倉村洞雲寺末茲眼山と号す用山香

庵明梅ハ慶長五年寂す

新町

横町より右へ入小路あり 浄成道より一條の小

路とあり

光明院

真言宗宿内弥勒寺の末稻荷山と号す

久保宿町

町の中程より左へ入小路あり且過町より末小門

あり且過口と号す

願生寺 左

浄土宗宿内浄安寺の末實相山西方院と号す

弥陀を本尊とす

本栄寺 左

日蓮宗宿内真浄寺の末本尊三寶祖師

安置す

三光寺 左

天台宗東叡山の末愛宕山満藏院と号し本尊ハ地藏なり開山元立寛永年中起立と云傳ふ

大龍寺 左

禪宗江戸愛宕下青松寺の末雲居山と号し本尊釈迦を安置し開山一峯麟曹ハ元和九年十一月八日寂き開基も岩槻の城主青山伯耆守忠俊ハ一ツ則其人の位牌あり大龍寺殿春室宗心居士寛永二十年四月十五日と記き

一里塚

日本橋より九里

岩槻城

沓泊

當城の形勢ハ西南と首と一東北を尾と以本丸二の丸内外の郭二ツの櫓臺七ツの城門あり本城のさぬハ東北小元荒川の水流き東より南の方ぬハ溝と堀或ハ深田とあり要害小あり外郭小五ヶ所の門あり其うち諏訪小路口林道口の内外ハ市店連徒一其餘の門外ハ田間小一ツ城下町も其内小あり其うち郭外と廻道ハ元々二里あり存する築城のときハ長祿年中太田道灌築

さしと云江戸河我鉢取なり同くさありの取立なり
一後太田美濃守資頼當城小あり一時家人
淡井三郎とくくさあひを如小北条左京大夫氏細
小内應一太永五年二月六日落城以亨禄四年
九月資頼軍攻むるに當城を攻落しあゆひ
持城とす天文二年其子信濃守資時小田原を
其身ハ世と遁ま三樂と号れいく程もおく資時
卒し一は美濃守三樂大の城小居志り北条
左京大夫氏康と戦ふ其子大膳亮氏資小至り
父小とくく北条氏康小属に三樂ハ志まらるる免小

城と出く常別小報きあり氏資卒し一は男子あり
一は北条氏政の次男十郎氏房小太田氏を名のり
せ此城小居し一は天正十八年五月十九日大岡秀吉
小田原攻のとき當城へも討手と向らま上方三河の
軍兵とくくあれをせ免し一は大手の方小は浅野
弾正少弼長政同左京大夫幸長本多中勢太捕
忠勝同平八郎忠政搦手ハ鳥居亮右衛門元忠平岩
主斗頭親吉和氣口小は木村常陸公兄弟押寄
又北条方小は妹尾下徳守所圍源右左衛門公は郭外
へ出くあゆむ戦ふ浅野長政謀と以く風上り

火とともつて焼立し同廿日北条方のものとも
あつた氣に城を棄てて退去せりしかるに城を
淺野長政の手小うけとる其子左京大夫幸長
一命をせりし事

清入國のとて高力河内守清長小賜ひ土佐守正
長左邊太夫忠房小至きり忠房は居住のとき慶
長十四年三月城をりて炎上りその後ありて
小城郭殿舎を造營せり

東照宮六の所よりに鷹狩し多むに城内小入清
ありしは忠房むり奉ふ新築の殿舎等城

御覽しし速成の功と賞しむし白銀二百枚と賜
り元和五年忠房は遠列濱松後され當城とハ
青山伯耆守忠俊と賜りし故有て遠流せし是明
城とありしとより朽木内膳正新庄駿河守と
互小守りし是むし同九年阿部備中守正次小賜ハ
又五代を經て對馬守忠盛の時定寶元年丹後國
宮津へ所替ありて同年板倉内膳正小賜りて同
三年板倉氏の信州松本に移り當城ハ戸田山城守
忠昌小賜ひ天和三年中徳國佐倉に移り松平伊賀守
某の居城とあり元禄十年より但馬國出石に移

又同年小笠原佐渡守長信の居城となり七年と経
て永井伊豆守直教伊賀守直陳のとき寶曆六年
美濃国加納に移され同年大園出雲守忠光の居城
となり引続き今子孫大園主膳正忠固の居城なり
本丸

御茶屋曲輪

本丸より續くあり

御成御門

日光 御系譜の時 御宿城より故なり

二丸

本丸の東小あり

竹澤曲輪

二丸の東よりあり

天神曲輪

本丸二丸の中間より天神社あり

明戸口

天神曲輪の東北小ありより山道より本城のよりあり
廻りより新正寺曲輪小あり

武具藏三

二ツハ本丸二丸の間小あり一ハ植木屋裏の外小あり

車橋門

寺成門の卯小あり、又、坂出迄ハ植木屋敷小あり

植木屋敷

本丸の西小あり

櫓ニツ

一ハ大手門の北小あり、一ハ侍屋敷の辺小あり

新正寺曲輪

本城の東の方小あり、城の背後を免く爲て北方小
至、至、帯曲輪とも云西北小門あり、又、坂出迄
ハ田中町小至、至

久伊豆明神社

當城の鎮護神あり、城内及び城下町の惣
徳あり、別當光明院

大手門

本丸の西南小あり、前よ馬出あり

淡江門

大手門の西南小あり、岩槻往還あり、大手のく、通
き、口あり、門内ハ士屋敷あり、又、城内卯の境小あり
外來の人た、を、出入、を、な、り、又、作、り、

撞鐘

淡江口の内小あり、享保五年城主水井伊賀守鑄造の由鐘銘小彫あり、淡江町の里正某、美しう二六の時と報る

木下門

淡江口の西南小あり、六の内も士屋敷あり、江戸小路ふく唱あり

裏小路

此道も西南の方より六の内も士屋敷あり、新小路ともあり

天神小路

大手門の前より西南の方への直路あり、南方小水戸あり、天神口より

天神社

八幡社

崇藏寺

日蓮宗池上本門寺の末あり、惠光山是雲院、号は奉尊三寶と安んず

諏訪小路

大手門の前廣小路より東へ入る小路あり、此も士屋敷あり、東南の場小門あり、此門を馬場と

富士宿町小葉

諏訪社

妙覺寺

日蓮宗長慶山と号し池上本門寺の末あり

正福寺

天台宗慈恩寺村慈恩寺の末東光山延命

院と号し開山香仏不動と本尊と

淨源寺

一向宗西本願寺の末安寧山と号し開山と

善正と号し弥陀と本尊と

富士宿町

諏訪小路門の外あり

知樂院

禅宗謙倉圓覺寺の末本尊釈迦と安置

開山奇文元龜二年寂し開基太田美濃守資

頼天文五年卒

淡江町

淡江口の外田中町とくの間あり淡江氏家系と

按多小彈正忠平景胤ハ古河公方義氏小仕一累

代武藏国埼北郡岩築淡江小住ハ故小氏と

以子孫繼齋長善幼少より医術を學び移り
江戸小住より寛永十年召出され侍医師に
あつたり東鑑建曆三年五月十七日の条小武
藏国大河戸御厨内八條郷賜式部大夫重清祖地
頭波江五郎光衡者如本所可安堵之由所々作下
也云々とあり是等ふれは曰く是等波江氏當國の内
以領事し事知るる且波江ハ當國七黨の内野子
黨より出り波江四郎俊遠同有光同光茂ふれハ
ふ人あり是等も當所より出り人あり

淨安寺右

浄土宗京都知恩院の末快樂山微妙院と号し本
尊弥陀を安置し寺領六十二石余ハ慶長七年十
一月賜ふ所あり當寺むらハ真言宗ありといつ
の以より廢せしと云永正二年天誓了聞再び開き
今の宗小改免あり此天誓といふ信別伊奈郡高遠
の人より父ハ飯田監物直明と号し母ハ野澤氏の
女あり始免禪林小入り後小了誓聖岡上人の門に入り
改宗し明應元年江戸増上寺小住し第五世と云
甲同一明應中足立郡花又村小一寺と建し実性
寺と号し退隱の地と定む永正二年當寺と再

興一 同年七月八日寂以寛永年中越後少將忠
輝郷の嫡徳松同母堂見相院共よ時の城主阿
部對馬守へ移す玉いし見相院ハ寛永九年四
月十三日卒以同五月廿七日徳松卒去あり相生
院殿明譽珠光清室大禪定門と溢し共小
當寺小葬る云又天正年中太田氏房より寺へ
一 文書ハ貞享年中火災小かき今ハ字を藏
せり
東照宮慶長五年奥羽清征伐のとき當寺小清
一 宿ありしとき一 清由緒をりて清宮を勧請

ト奉まゝなり

淨心庵

天崇庵

西光庵

西心庵

以上の庵ハ淨安寺の塔頭なり

東光寺 左

真言宗若内弥勒寺の末瑠璃山と号し本尊薬師
ハ春日の作り

観音寺 右

宗肯本寺東光寺小同——本覺山と号し本尊
十一面観音ハ太田道灌の守り本尊ありと云

龜山縮荷社

天和年中松平伊賀守丹波の龜山より當城へ
移り一時彼地より従い来り——白狐當寺に死
せし故縮荷小祭まつると云

田中町

大壽院 右

本山修驗寺手領小洲村不動院の配下あり本
尊不動と安置あり

松龍寺 右

禅宗境内大龍寺の末あり本尊釈迦と安置あり

田中口

日光のより出る本戸と云

成就院 左

田中口の外ふあり天台宗慈恩寺の末金色山と
号し勢至と本尊あり

龍門寺 左

禅宗男衾郡寄居村正龍寺の末玉峯山と号し
本尊ハ釈迦と置り天文十九年新田若狭守閑基

外若狭より法名と玉峯道全く号は

元荒川

水源八中山道熊谷辺より引續き末ハ裁谷辺より出
下御村用水より外

田中橋

板橋長十八間幅三間元荒川小架以

小橋

板橋長七間幅三間元荒川小架以此橋过村の境

小架以と云く过橋と云呼べり

日光道中畧記卷之二

